

全小中学校にエアコン

900 教室を2年で整備

市内で一番新しい平田野中学校

鈴鹿市教委は7月15日の市議会全員協議会で、市内の全小中学校の普通教室全てにエアコンを整備する計画を発表しました。環境省の再生エネルギーを活用してCO2削減をすすめる新規事業にエントリーして、2016・17年でいっきに、40校900教室に取り付けるといふものです。

概算事業費は35億円、10年間のリース方式にして維持管理費5億円を加えて40億円、うち市負担は16億円（年1・6億円）です。

「あつて当たり前」世間の常識が通用する学校に

鈴鹿市はこれまで、子どもたちが長く過ごす普通教室に、やっと扇風機を付けたところで、冬のストーブ設置も西部地域などだけでした。今回の計画が実現すれば、一挙に遅れを挽回することになります。

共産党市議団の石田団長は、「20年以上も前から『せめて冬はストーブを』と何度求めても進まなかったのが、2年でエアコン完備とは大転換で、歓迎しま

すずか民報

第144号
2016年8月

日本共産党鈴鹿市議団
市議会報告



看板の言葉が入れ替わった市庁舎前

『部落差別』の看板なくなる

市庁舎から立体駐車場への通路脇に立てられていた、

連して、市として同和問題の終結を宣言することを求めました。

「部落差別をなくそう」と書かれた大看板が、5月21日に外され、「人権尊重のまち」という言葉に30年ぶりに入れ替わりました。以前から何度も共産党市議団が撤去を求めていたことが、やっと実行されました。

6月議会で橋詰圭一議員は「人権尊重のまち」に関

大幅値上げされた国民健康保険税

一般会計からの支援ルール化を

国民健康保険税の今年度の納付通知が届き、多くの市民の方が、その値上がり幅の大きさに驚いているのではないのでしょうか。

ピスが、鈴鹿市では水準を下げられたいしないかと、ただしました。

答弁では、市として現行の訪問介護、通所介護はこれまで通り利用できるよう、円滑な移行をめざすと表明。また、専門職でない雇用労働者やボランティアでも良いとされる「緩和された基準によるサービスA」は、当面行わないとしました。



森川ヤスエ 市議

日本共産党市議団は値上げ検討時から、これ以上の値上げは市民生活を壊すので、一般会計からの繰り入れで市民の負担を抑えるよう強く求めてきました。

6月議会で森川ヤスエ議員は、命のセーフティネットとしての役割を持つ国民健康保険だからこそ、社会保障としての位置づけが重要であり、①所得ゼロ世帯への減額免除制度を検討し

その免除分、②収入のない子どもの負担分、③他の健保制度への税制上の支援に見合う分など、一般会計からの繰り入れのルールの確立を求めました。

また、今後は一般会計からの支援でこれ以上の値上げはしないという方向性で、高すぎる税の引き下げを行い、支払いやすくすることで収納率の向上を図ることが、国保会計の安定的運営に効果的だと、市の考えをただしました。

末松市長は、市民にご負担をおかけしたことは十二分に承知している。平成30年度からの広域化による国保財政への影響がどの程度になるのか、一般会計の繰り入れも含めて、もう少し検討する材料を集めて判断させていただきたいと答弁しました。

■鈴鹿市の国民健康保険税
値上げ前と後の比較

	1世帯当り 税額	1人当り 税額
2016年度	185,511円	112,039円
2015年度	161,535円	96,129円
値上げ率	14.84%	16.55%

■Cバス利用者数の路線別4～6月実績と 昨年度との比較（単位・人）

	椿・ 平田線	庄内・ 神戸線	白子・ 平田線	太陽の街・ 平田線	全路線 合計
2016年	33,905	15,125	17,961	4,102	71,093
2015年	40,028	17,393	21,909	4,490	83,820
増減人数	-6,123	-2,268	-3,948	-388	-12,727

本年4月から最大2倍もの料金値上げをしたCバス、西部路線、南部路線とも昨年にくらべて（6月まで3ヶ月の実績）1万7727人、15%も乗客数が落ち込みました。市は乗客数が減らない前提で年間2600万円の増収を見込んでいましたが、この利用減で年間収益はおおよそ1000万円（マインス約40%）も下方修正となります。利用者市民の声をきかずに、一方的に値上げを押し付けたことが、

Cバス利用に「通学割引 定期」「高齢者割引」を

運賃値上げで、15%も乗客減る



石田 秀三 市議

この結果をもたらしたので

「収益」よりも
「交通弱者の足」という
原点に返って

そもそもCバスは、交通不便な地域の高齢者や高校生など「交通弱者」のために走り出したもので、最初から「採算」という考え方はとっていません。それが市財政の持ち出しを減らすために「収支率40%」以上という基準を後からつけて、今回の値上げになったものです。

6月議会で石田秀三議員は、この値上げでいちはん影響を受けている、高校生と高齢者に割引料金を、また通学定期券を作ること求めました。

石田議員は、通学定期を発行している三交バスや近鉄、JRと比べるとCバスの方が高いという実例を出して、せめて民間よりは安

公民館等の2階トイレも洋式に

公民館の男女別トイレへの改修状況は、この10年で17館が整備され、残り7館も計画的にすすめられています。

男女別改修に先立ち、全ての公民館等で、和式トイレの洋式化、一つ以上の洋式トイレの設置が完了しており、利用者に喜ばれています。しかし、2階建の2階トイレで和式しかないところが多く、改善を望む声が聞かれます。

橋詰圭一議員は、2階トイレを「簡易設置洋式トイレ」でもいいから、早急に洋式にできないかと質問しました。

公民館の2階建で2階にトイレがあるのは7館で、その内洋式便器がないのは3館である。コミュニティ



橋詰 圭一 市議

くすべきだ、と主張しました。

市の担当部局は、利用者へのアンケートや調査を近く行なって、問題点を検討したいと答えました。

センターについても、整備計画はないが、今後トイレの男女別化と合わせて2階部分も「検討していきたい」との答弁でした。



早急に洋式への改修が望まれる、白子コミュニティセンター2階トイレ

地域づくり協議会 推進できるか？

市の幹部職員470人を支援職員として配置し、「鈴鹿市地域づくり推進本部」が設置され、地域づくり活動がスタートしました。

橋詰圭一議員は6月議会で、地域づくり協議会を作ることが、地域の絆づくり、自治会などの活動の活性化にどうつながると考えているか？具体的にどういう活動をイメージしているのか？と問いただしました。

5歳児健診始まる 専門的知識を持った 正規職員の配置を

鈴鹿市でも5歳児健診が始まります。この健診の目的は発達障がいを見つけることにあるのではなく、その後の支援を通じて将来社会人として自分の持つ特性を生かして社会生活を送れるように支援することにあると言えます。発達の遅れは一人一人違いがあっても、その対応は丁寧なかかわりと専門的知識や経験がとて

も重要になります。6月議会で森川ヤスエ議

員は、健診業務と健診後の支援のための職員体制の充実、特に専門職の正規職員をきちんと配置することを求めました。嘱託や臨時など非正規職員の増員だけでは、職員のスキルアップや保護者や保育所、学校現場で頑張る担当職員さんへの指導などきめ細かな対応は難しくなります。

市側の答弁でも、専門性を持った職員による相談支援体制を安定的に確保していくことが今後の課題で、正規・非正規を含めて検討していくとの認識が示されました。

防犯パトロールでは、個々の団体や住民がともに地域づくり協議会の「防災安全部」として活動することで、地域の安心安全につながる事業にできる。また、団塊の世代の退職者の地域活動への参加や、NPOや地域内企業との連携により、効果的な地域活動の展開も期待できる、との答弁でした。

また、各地域の地域づくり協議会の組織は、自治会を中心として、老人会、民生児童委員、消防団、PTA、商店会、その他など、10数団体もの代表で構成される。中でも1行政区で複数の協議会を抱える地域、白子、玉垣、国府地区では、地区市民センター所長の仕事の負担は、今の数倍になるのではないかと過度の負担にならないように求めました。

生活相談など お気軽に連絡下さい

石田 秀三 ☎371-0423
鈴鹿市伊船町 2751

森川ヤスエ ☎384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34

橋詰 圭一 ☎386-8561
鈴鹿市岸岡町 2874-1

日々の活動は
Facebook
ブログ、HPを
ご覧ください

石田 秀三

森川ヤスエ

はしづめ圭一

検索